オノマトペの詩・『たべもの』発問例

（号令）

①『オノマトペ』という言葉の確認

　故意に様々な音を立てる。
・教室のドアを開ける
・大きな音を立てて歩く
・黒板を力強く消す　など

　教員：「今、先生が様々な音を立てました。どんな音がしましたか。」

児童：「教室のドアを開けたときに、がらがら　と音がしました。」
「歩いたときに、どすどす　と音がしました。」
「ぼくは　どしんどしん　だと思ったよ。」
「黒板を消したときに　きゅっきゅ　と音がしたね。」

教員：「みんなが言ってくれように音を言葉で表したものを『オノマトペ』といいます。音だけでなく「お星さまがキラキラ輝いている」の「キラキラ」や「ニコニコ笑顔」の「ニコニコ」などのように、様子を表す言葉も『オノマトペ』といいます。

②授業の見通し

　教員：「今日は、中江俊夫さんという方が作った『たべもの』という詩を使って学習していきます。」

（空欄のある詩のプリントを配布する。）

③詩について気づいたことの発表

　教員：「詩を見て、何か気づいたことはありますか。」

児童：「四角があって、書かれていないところがある。」
「ほこほこ　とか　つるつる　とか音が書いてある。」
「オノマトペが書いてある。」
「文の下には　食べ物が書いてあります。」

教員：「そうです。この詩では、文の上がオノマトペで、下は食べ物が書かれています。この詩を完成させましょう。」

めあて：オノマトペの感じを想像して、『たべもの』の詩を完成させよう。

④空欄を埋める

　教員：「もこもこ　さといも」の次にくる「ほこほこ」というオノマトペで表された食べ物は何だと思いますか？」

児童：「にくまんかな。」
「さつまいもじゃないかな。」

教員：「中江さんは　ほこほこ　「さつまいも」と考えました。でもね。違う食べ物だと考えた人もいますよね。それは、その人にとっての『たべもの』という新しい詩になります。違ったからと消さないで、四角の下に中江さんの考えた食べ物を書けばいいですよ。」

　教員：「それでは、そのあとも空欄がありますね。一人で考える時間を設けます。５分経ったら隣の人と相談していいです。

⑤意見を出し合って詩を完成させる

　教員：「それでは、詩を完成させましょう。もし、自分が書いた食べ物が中江さんの考えた食べ物と違ったとしても、間違いではなく、自分自身の『たべもの』の詩となりますから消さないでくださいね。」

教員：「もこもこ　さといも、ほこほこ　さつまいも、はりはり　だいこん、ぱりぱり…？」

　児童：（答える）

　教員：「中江さんの『たべもの』の詩が完成しました。みんなで詩を読みましょう。」

　児童：（読む）

⑥オノマトペを使って詩を作る

　教員：「中江俊夫さんの『たべもの』の詩を参考に、みなさんで新しいオノマトペを使った詩を創作しましょう。題名は『かあさん』です。どんなオノマトペがいいでしょうか。」

児童：「にこにこ　かあさん」
　「ぷんぷん　かあさん」
　「ぐーぐー　かあさん」
　「いらいら　かあさん」

教員：楽しいオノマトペの詩ができましたね。みなさんで『かあさん』の詩を読みましょう。

児童：（読む）

教員：「授業のまとめをします。」

まとめ：同じ音でも、人の感じ方によってオノマトペが違います。また、同じオノマトペでも、思い浮かべるものが違います。

教員：「プリントを裏返して、名前と振り返りを書きましょう。」